

2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年7月31日  
上場取引所 東

上場会社名 インヴァスト株式会社  
 コード番号 7338 URL <https://www.inv.inc/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川路 猛  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 大村 祐一郎 (TEL) 03-6858-7105  
 四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		純営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	1,590	11.8	1,434	13.9	131	164.6	130	216.7	81	622.8
2023年3月期第1四半期	1,423	39.7	1,259	25.0	49	215.6	41	△85.9	11	△94.1

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 24百万円(△91.2%) 2023年3月期第1四半期 279百万円( 31.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年3月期第1四半期	円 銭 13.94	円 銭 —
2023年3月期第1四半期	1.93	1.92

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	118,119	11,647	9.9
2023年3月期	122,278	11,734	9.6

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 11,638百万円 2023年3月期 11,725百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	19.00	—	19.00	38.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	19.00	—	19.00	38.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

当社グループの主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり、業績予想が困難であるため、連結業績予想の開示は行っておりません。その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 ー社 (社名) 、除外 ー社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2024年3月期1Q	5,876,331株	2023年3月期	5,876,331株
2024年3月期1Q	34株	2023年3月期	34株
2024年3月期1Q	5,876,297株	2023年3月期1Q	5,876,297株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は利益の配分について、安定的な配当の継続を前提としつつ、業績に応じた適切な利益還元を行うことを基本方針とし、中間配当、期末配当の年2回の剰余金の配当を行ってまいります。  
 配当は、連結配当性向30%または連結純資産配当率 (DOE) 2% (年率) のいずれか高い方を目安とし、実施いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(表示方法の変更)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行されたことに伴い、各種イベントの開催やインバウンド需要などのサービス消費が拡大し、個人消費も改善傾向となりました。昨年10月に行った水際対策の緩和が顕著にインバウンド需要の回復につながっており、5月発表の1-3月期GDPは事前予想を大きく上回り、前期比+0.4%、前期比年率+1.6%と3四半期ぶりの伸びとなりました。長期間、感染リスクを懸念して抑制されていた需要が活況を取り戻しつつあり、今後も個人消費とインバウンド需要のさらなる拡大が大きく期待されています。

外国為替市場では、日銀決定会合で金融緩和が維持され、政策の修正に慎重姿勢が示されたことで日米金融政策の差が再び鮮明になり、ドル円は前期末の132円台から6月には一時145円台をつける場面もありました。

6月のFOMCでは、11会合ぶりに追加利上げは見送られたものの、年内にあと2回の利上げが必要との見解が示され、対円通貨は6月末にかけて一段高となりました。

株式市場では、6月のFOMCで米国の追加利上げが示唆されたものの、3月の米国の地銀破綻が金融不安に発展しなかったことや米国債の債務不履行（デフォルト）懸念が後退したこと等から、米国景気がソフトランディングに向かうとの見方が強まり、株式市場は堅調な展開となりました。

このような経済環境のもとで、当社グループにおける各セグメントの業績概況は以下のとおりであります。

インヴァスト証券株式会社を中心とする国内金融事業は、注力サービスである「トライオート」を中心に、顧客の取引活性化及び利便性向上を図る観点から、自動売買セレクトのシミュレーション機能のバージョンアップや、人気ブロガー考案の新トレードルール追加等に加え、顧客取引画面「Myページ」のデザイン全面刷新によるリニューアルを実施いたしました。

こうして、国内金融事業の純営業収益は7億71百万円（同101.1%）となり、セグメント利益は87百万円（同458.6%）となりました。

なお、国内金融事業の顧客口座数は515,647口座（前年同期比105.8%）となり、預り証拠金残高は、790億32百万円（同92.9%）となりました。

海外金融事業である豪州子会社Invast Financial Services Pty Ltd.は、FX & Metals CFDの取引量が増加したことや、CFDにおける新商品として日本株やソフトコモディティをローンチしたこと、また、高金利環境における金利収入増加等の要因もあり、純営業収益は7億64百万円（前年同期比130.2%）となり、セグメント利益は1億34百万円（同122.9%）となりました。

これらの結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の営業収益は、15億90百万円（同111.8%）、純営業収益は14億34百万円（同113.9%）となりました。

販売費・一般管理費は全体で13億3百万円（同107.7%）となり、純営業収益から販売費・一般管理費を差し引いた営業利益は1億31百万円（同264.6%）、経常利益は1億30百万円（同316.7%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は81百万円（同722.8%）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して41億59百万円減少し1,181億19百万円となりました。流動資産は、41億41百万円減少し1,162億73百万円となりました。

流動資産の主な増加項目は、短期差入保証金の増加17億60百万円であり、一方、主な減少項目は、現金・預金の減少25億60百万円、外為取引未収入金の減少31億32百万円であります。

また、固定資産は、前連結会計年度末と比較して17百万円減少し18億45百万円となりました。

### (負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は1,064億72百万円となり、前連結会計年度末と比較して40億71百万円減少しました。流動負債は、40億74百万円減少し1,062億12百万円となりました。

流動負債の主な増加項目は、未払法人税等の増加47百万円であり、主な減少項目は、受入保証金の減少25億17百万円、外為取引未払金の減少11億88百万円、短期借入金の減少5億円であります。

また、固定負債は、前連結会計年度末に比べ2百万円増加し2億49百万円となりました。

特別法上の準備金は、10百万円となりました。

### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は116億47百万円となり、前連結会計年度末と比較して87百万円減少しました。主な増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益81百万円の計上であり、主な減少要因はその他有価証券評価差額金の減少63百万円、配当金の支払いによる1億11百万円であります。

この結果、自己資本比率は9.9%（前連結会計年度末は9.6%）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり業績予想が困難であるため、業績予想の開示は行っておりません。

その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金・預金	9,352	6,792
預託金	32,750	32,569
顧客分別金信託	9,400	9,900
顧客区分管理信託	23,257	22,576
その他の預託金	92	92
短期差入保証金	53,110	54,871
外為取引未収入金	24,663	21,531
その他	538	509
貸倒引当金	△0	△0
流動資産計	120,415	116,273
固定資産		
有形固定資産	207	183
無形固定資産	539	564
投資その他の資産	1,116	1,098
投資有価証券	98	98
出資金	845	790
繰延税金資産	65	107
その他	107	101
貸倒引当金	△0	△0
固定資産計	1,863	1,845
資産合計	122,278	118,119
<b>負債の部</b>		
流動負債		
受入保証金	94,751	92,233
短期借入金	3,500	3,000
外為取引未払金	11,264	10,076
未払法人税等	164	212
賞与引当金	36	15
役員賞与引当金	24	5
その他	546	669
流動負債計	110,287	106,212
固定負債		
繰延税金負債	222	223
その他	23	26
固定負債計	246	249
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	10	10
特別法上の準備金計	10	10
負債合計	110,543	106,472

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	500	500
資本剰余金	7,646	7,646
利益剰余金	2,959	2,930
自己株式	△0	△0
株主資本合計	11,106	11,076
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	568	505
為替換算調整勘定	50	56
その他の包括利益累計額合計	619	561
新株予約権	8	8
純資産合計	11,734	11,647
負債・純資産合計	122,278	118,119

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
営業収益		
受入手数料	282	201
トレーディング損益	929	805
金融収益	101	444
組合投資利益	-	37
その他の営業収益	108	101
営業収益計	1,423	1,590
金融費用	100	156
組合投資損失	62	-
純営業収益	1,259	1,434
販売費・一般管理費		
取引関係費	297	270
人件費	473	556
不動産関係費	301	340
事務費	30	16
減価償却費	56	61
租税公課	27	34
その他	22	21
販売費・一般管理費計	1,209	1,303
営業利益	49	131
営業外収益		
為替差益	-	2
その他	0	0
営業外収益計	0	2
営業外費用		
為替差損	7	-
その他	1	2
営業外費用計	8	2
経常利益	41	130
特別利益		
金融商品取引責任準備金戻入	0	0
新株予約権戻入益	-	0
特別利益計	0	0
税金等調整前四半期純利益	41	131
法人税、住民税及び事業税	33	62
法人税等調整額	△2	△13
法人税等合計	30	49
四半期純利益	11	81
親会社株主に帰属する四半期純利益	11	81

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	11	81
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	144	△63
為替換算調整勘定	123	5
その他の包括利益合計	268	△57
四半期包括利益	279	24
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	279	24

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

当第1四半期連結累計期間より、従来「営業外収益」または「営業外費用」に計上しておりました「組合投資利益」及び「組合投資損失」を「営業収益」または「営業収益」より差し引く費用としての「組合投資損失」として計上する方法に変更しました。

これは、当社と連結子会社との会社分割により当社が承継した事業より発生する損益について、当社の事業活動内容に照らしより適切な表示とするために行ったものであります。この表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書の組替えを行っております。

この結果、前第1四半期連結累計期間において、「営業外費用」の「組合投資損失」として表示していた62百万円は、「営業収益」より差し引く費用としての「組合投資損失」として組替えております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	国内金融事業	海外金融事業	合計		
純営業収益					
外部顧客への純営業収益	713	546	1,259	—	1,259
顧客との契約から生じる 収益	230	161	391	—	391
受入手数料	163	119	282	—	282
その他の営業収益(外 部顧客)	67	41	108	—	108
トレーディング損益等の 金融商品収益(注) 1	594	437	1,031	—	1,031
その他(注) 1	△111	△52	△163	—	△163
セグメント間の内部純営業 収益又は振替高	49	40	90	△90	—
計	762	586	1,349	△90	1,259
セグメント利益	19	109	128	△79	49

(注) 1. トレーディング損益等の金融商品収益の内訳は四半期連結損益計算書のトレーディング損益及び金融収益であります。その他の内訳は金融費用、組合投資利益及び組合投資損失であります。

2. 「調整額」は次のとおりであります。

(1) 純営業収益の調整額△90百万円はセグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益の調整額△79百万円はセグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	国内金融事業	海外金融事業	合計		
純営業収益					
外部顧客への純営業収益	674	760	1,434	—	1,434
顧客との契約から生じる 収益	151	151	303	—	303
受入手数料	122	78	201	—	201
その他の営業収益(外 部顧客)	29	72	101	—	101
トレーディング損益等の 金融商品収益(注) 1	642	607	1,250	—	1,250
その他(注) 1	△119	1	△118	—	△118
セグメント間の内部純営業 収益又は振替高	97	3	100	△100	—
計	771	764	1,535	△100	1,434
セグメント利益	87	134	222	△91	131

(注) 1. トレーディング損益等の金融商品収益の内訳は四半期連結損益計算書のトレーディング損益及び金融収益であります。その他の内訳は金融費用、組合投資利益及び組合投資損失であります。

2. 「調整額」は次のとおりであります。

(1) 純営業収益の調整額△100百万円はセグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益の調整額△91百万円はセグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。